

持続可能な社会に向けた活動

環境への取組み	80
社会貢献活動	82
スポーツ振興への取組み	84
損害保険業界としての取組み	86

環境への取組み



当社は、グループ共通取組の一環として、環境マネジメントシステムの推進や生物多様性の保全活動、温室効果ガス排出量の削減に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献しています。

環境問題への基本姿勢

当社は、環境問題を経営の重要課題として位置付け、地球環境と事業活動との持続可能な関係構築をめざしています。2010年4月からは「MS&ADインシュアランス グループ環境基本方針」のもと、環境保全活動や生物多様性の保全活動等を積極的に推進しています。

MS&ADインシュアランス グループ 環境基本方針【要旨】

MS&ADインシュアランス グループは「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支えます」という経営理念(ミッション)に基づき、環境について経営戦略の一環として次の主要課題を定め、行動基準に沿った取組みを推進します。

環境マネジメントシステムによる継続的な改善に努め、環境関連法規制やMS&ADインシュアランス グループが同意する原則・指針等を遵守します。

主要課題

- (1) 気候変動の緩和および気候変動への適応
- (2) 持続可能な資源の利用
- (3) 環境負荷の低減
- (4) 生物多様性の保全

行動基準

- (1) 保険・金融サービス事業を通じた取組み
- (2) 事業プロセスにおける取組み
- (3) 環境啓発および保護活動

2019年3月1日最終改定

温室効果ガス排出量削減の取組み

MS&ADインシュアランス グループは「2050年度までに温室効果ガス排出量の実質ゼロ」に向け、温室効果ガス排出量削減に取り組んでいます。

国内では、自社保有ビルの一部で使用電力を再生可能エネルギーに切り替えるなど、再生可能エネルギーの導入を拡大しています。駿河台ビル、駿河台新館、大阪淀屋橋ビル、玉川研修所などに太陽光パネルを設置し、発電したエネルギーを同ビルで利用しています。また、省エネのため照明のLED化や空調設備更新を進めています。



駿河台新館ビル屋上に設置した太陽光パネル

海外拠点では、2019年より証書購入を通じて、使用する電力に占める再生可能エネルギーの割合を高めています。

社有車を順次HV(ハイブリッド自動車)やEV(電気自動車)に入れ替え、ガソリン使用による温室効果ガス排出量削減を進めています。

MS&ADグリーンアースプロジェクト

2022年度から、自然環境の保全・再生や環境負荷低減、防災・減災・地方創生をテーマに、MS&ADグループ一体で取り組む「MS&ADグリーンアースプロジェクト」を開始しました。本取組を通じて、さまざまなステークホルダーと協働し、自然が持つ多面的な機能を活かしたレジリエントでサステナブルな社会の実現に貢献していきます。

自然環境の保全・再生による防災・減災と地方創生

地域の活動団体と連携し、社員とその家族等のボランティアによる現地での環境保全・再生活動を通じて、自然が有する防災・減災の機能回復や脱炭素、雇用機会の拡大等、社会課題の解決に取り組んでいます。2022年度は熊本県球磨川流域、宮城県南三陸町を活動場所に定め、湿地、里山、藻場などの保全・再生活動に参加しました。

ペーパーレスによる環境負荷低減

eco保険証券、Web約款、スマホ決済の利用等、お客さまにご選択いただいたペーパーレス取組の進捗に応じて、脱炭素化や生物多様性保全を目的とした活動に寄付しています。

電力やガソリン利用の抑制による環境負荷低減

全社員が紙、電力、ガソリンの使用量削減に取り組んでいます。DX推進によるペーパーレス会議やスマートワークの加速、執務室内の節電、上下数階の移動の際の階段利用等、身近な活動を通じて環境負荷低減に取り組むとともに、社員の理解促進につなげています。

企業向け生物多様性シンポジウムの定期開催

2007年から開催している企業向け生物多様性シンポジウム「企業が語るいきものがたり」は、2018年度の第12回から主催をMS&ADホールディングスに変更して開催しています。2023年2月の第16回では「生物多様性世界目標の実現に向けたビジネスが果たす社会変革」と題し、Webによるオンライン配信を行いました。

MS&ADホールディングスは「企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」の会長会社として、生物多様性の保全活動に取り組み、SDGs達成に重要な自然資本の持続可能性向上のために、企業が何をすべきか議論する場を提供しています。

インドネシア熱帯林再生プロジェクト

森林の再生と持続可能な地域社会の形成に向けた取組み

2005年よりインドネシア環境林業省と連携し、ジャワ島ジョグジャカルタ特別州のパリヤン野生動物保護林の修復・再生プロジェクトを18年にわたり継続しています。350haの地域に約30万本の植樹をしたことで、劣化した野生動物保護林が修復・再生しています。



当初(2005年10月)



現在(2023年3月)

植樹は在来樹種を中心とし、生物多様性に配慮して行っています。開始当初から近隣住民が経済的に困窮すると保護林の不法伐採のリスクがあるため、樹木が成長するまでの間に収入が得られるよう果樹や農作物等も育てるなど、住民の経済的支援にも取り組んでいます。

現在では周辺地域住民に植林・育林の技術指導を行う住民協働型植林を展開し、住民の生計向上や地域経済の活性化に貢献しています。

加えて、ガジャマダ大学に環境教育を委託し、小中学校の先生や生徒とその親等を対象に、森林保護の重要性を伝える研修も実施しています。



苗木水やりの様子

駿河台緑地の多面的機能と地域との共生

本店の駿河台ビル(1984年竣工)は、駿河台新館(2012年竣工)と合わせ7,090㎡の緑地を設けています。低層棟の屋上にある庭園は、専用エレベーターを設置し、地域の皆さまへ開放しています。駿河台新館の敷地内の植物は、在来種を中心に鳥や蝶が好む樹種を採用し、皇居と上野公園をつなぐエコロジカル・ネットワークの形成と野鳥の生息域拡大に努めています。屋上庭園内の菜園は近隣の方に無料で貸し出し、都会での野菜づくりを楽しんでいただいています。

また、駿河台緑地は自然が持つ多面的な機能として防災・減災にも活かされています。屋上庭園の優れた蓄雨機能は都市型水害の減災効果があるなど、自然の恵みで地域防災への備えを高める「グリーンレジリエンス」の概念に通じる緑地です。



屋上庭園 満開のサクラ

2021年のG7サミットで約束された30by30(2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標)の達成のため、環境省が認定する「自然共生サイト」に参画しています(2023年正式認定予定)。自然と共生する世界を実現するため、生物多様性の損失を減らし回復させる行動をとること(ネイチャーポジティブ)に取り組んでいきます。

駿河台新館に隣接する「ECOM(エコム 駿河台)」は、生きものや環境に関連した企画展示やイベントを開催する地域に開かれた情報の発信拠点です。2022年度は野鳥版画展の同時企画として出展者の版画家と雁の保護活動を行う方を講師に迎え、対面・オンライン形式でトークイベントを



ECOM展示・イベント案内ポスター

開催しました。地域の小学生対象の「生きものさがし自然塾」は、コロナ下初の対面形式で企画したものの雨天中止となり、次年度へ持ち越しとなりました。

このほかにも、駿河台ビル・駿河台新館は災害時におけるBCP(事業継続計画)の実効性確保のため、高い耐震性と停電・断水等に備える各種設備・システムを有し、周辺住民や帰宅困難者の一時滞在施設として活用できます。

【駿河台緑地の主な受賞歴】

2001年	「平成13年度都市緑化及び都市公園等整備・保全・美化運動における都市緑化功労者国土交通大臣表彰者」(国土交通省)
2004年	「第3回屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール」環境大臣賞(都市緑化機構)
2016年	「第1回ABINC賞」優秀賞(都市SC版)(いきもの共生事業推進協議会(ABINC))
	「第5回いきものにぎわい企業活動コンテスト」審査委員特別賞(いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会)
2017年	「第1回グリーンレジリエンス大賞」優秀賞(一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会)
	「第5回みどりの社会貢献賞」(都市緑化機構)
	「江戸のみどり登録緑地」優良緑地登録(第1号)(東京都)
	「SEGES(注)」緑の殿堂(Green Legacy)認定(都市緑化機構)
2018年	「RaCS雨水活用サイト認証」(第1号)エメラルドレベル(雨水まちづくりサポート)
2022年	「令和4年度 温暖化配慮行動計画書制度 表彰事業所」特別賞(千代田区)

(注)「SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)」とは、貢献度の高い優れた緑を評価認定する「緑の認定」制度です。2010年3月に閣議決定された「生物多様性国家戦略2010」の中の「緑の保全・創出・管理」に関わる普及啓発方策の一つとして位置付けられています。



社員食堂で「サステナブル・シーフード」の提供

2019年10月より駿河台ビル、2020年8月より千葉ニュータウンセンターの社員食堂において、サステナブル・シーフード^(注)(持続可能な水産物)を提供しています。毎月「サステナブル・シーフードデー」を設け、食堂利用者にサステナブル・シーフードを使ったメニューを提供しています。社員自らが「食する」ことで、当社のサステナビリティ取組を実感するとともに、自ら消費行動を変革することで、持続可能な社会の実現にも貢献していきます。

(注)持続可能な生産(漁獲・養殖)に加え、加工・流通・販売過程における管理やトレーサビリティの確保について認証を取得しているシーフードです。



サステナブル・シーフード 提供コーナー前の様子

社会貢献活動



当社は、地域社会・国際社会の一員として、保険・金融サービス事業を通じた社会貢献活動に加えて、社員による主体的な環境保全活動や地域社会への貢献活動を通じて、社会の持続的な発展に貢献しています。

災害時義援金マッチングギフト制度(2004年～)

社員から寄せられた災害被災者への義援金に対して、MS&ADホールディングスが金額を上乗せして寄付する「災害時義援金マッチングギフト制度」を実施しています。この制度の創設から19年間で、累計7億9,000万円を超える義援金を寄付しました。

- (1) 対象災害: 国内…災害救助法が適用され、義援金の募集が行われる災害
海外…一般社団法人 日本経済団体連合会が支援に関する情報提供を行う大規模災害
- (2) 拠出金額: 原則、社員からの義援金額と同額

【拠出実績(2022年度)】

対象災害	災害発生月	協力者数	社員拠出額	合計額 (マッチングギフト含む)
令和4年8月豪雨	8月	3,234名	4,138,000円	8,276,000円
台風15号	9月	2,099名	2,588,000円	5,176,000円
トルコ・シリア大地震	2月	3,880名	6,640,000円	11,640,000円
合計		9,213名	13,366,000円	25,092,000円

制度創設からの合計額	798,983,465円
------------	--------------

*上記は、MS&ADインシュアランスグループ全体の拠出金額です。

グループ社員による社会貢献活動団体

MS&ADゆにぞんスマイルクラブの活動



MS&ADインシュアランスグループの社員による社会貢献活動団体として、1993年に発足しました。活動に賛同する社員は毎月の給与から「100円×任意口数」を拠出し、その拠出金は、NPOへの助成活動や部支店による環境保全・社会貢献活動への資金補助、チャリティーイベントの開催費用等に充てられています。

チャリティーコンサート・イベントの開催

軽音楽部バレンタイン・チャリティーコンサート(1996年～)
MS&AD軽音楽部によるコンサートを開催し、その収益金を、タイ・ラオス・カンボジアの農村地域に住む子どもたちが中学校へ通う奨学金として、「公益財団法人 民際センター」へ寄付しています。2022年度は3年ぶりに、対面でチャリティーコンサートを開催しました。

社員・代理店による社会貢献活動

部支店で年に一つは環境・貢献活動

全国の部支店に所属する環境・社会活動サポーターが中心となり、各部支店で「環境」「安全」「福祉」「自然災害復興支援」等をテーマとした環境保全・社会貢献活動に取り組んでいます。2022年度は、新型コロナウイルス感染防止に努めながら、164部支店が234の活動を行いました。フードバンクへ食料品や日用品を寄贈する活動では、家庭のフードロス解消につながったとともに、フードバンクを必要とする方がいらっしやるという社会課題を、社員が考えるきっかけとなっています。



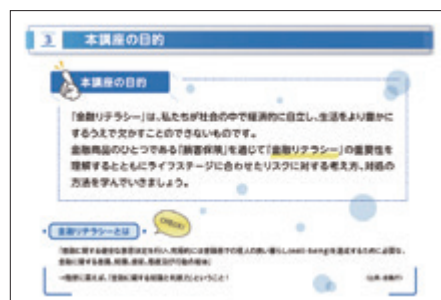
フードバンクに寄贈した食料品・日用品

金融リテラシー講座(損害保険編)

2022年4月の民法改正で成年年齢が18歳に引き下げとなりました。学習指導要領の変更を受け、若年層の金融リテラシー向上のための授業プログラムを新たに作り直しました。2023年1月から出張授業を開始し、延べ186名の学生に授業を行いました。グループワークや社員による講義を通じて、身近なリスクを正しく認識し、リスクに備える方法の一つとして損害保険の仕組みや重要性を伝えています。若年層により自立的で安心かつ豊かな生活を実現するための生活スキルを身に付けてもらう機会として、今後も取り組んでいきます。



金融リテラシー講座①



金融リテラシー講座②

地域各所の清掃活動を実施

各地域のNPO団体、住民とともに、文化財や観光名所のほか、生態系を守るために海岸や河川の清掃活動を行っています。



宮崎市海岸清掃

TABLE FOR TWOプログラムに参加(2008年～)

社員の健康維持と社会貢献を同時に行う、「TABLE FOR TWOプログラム」に参加しています。社員が社員食堂で対象の低カロリーメニューを購入すると、1食あたり20円がアフリカ等の発展途上国の学校給食プログラムへ寄付されます。2022年度末累計で12,629,820円(631,491食分)を寄付しました。



障がい者スポーツの支援

スペシャルオリンピックス日本への支援

当社は、スポーツトレーニングの機会や競技会等を提供するスペシャルオリンピックス日本のプレミアアスポンサーとして、知的障がいのあるアスリートを支援しています。

三井住友海上福祉財団の活動 (1975年創立)

交通安全等と高齢者福祉の両分野において、研究助成をはじめとした助成活動を行っています。毎年公募により、社会的意義が大きく実用性の高い研究を選定して、助成しており、その成果は当財団発行の「研究結果報告書集」やオフィシャルWebサイトにも掲載しています。また、研究助成は日本国内のみならず、タイや台湾でも行っているほか、「三井住友海上 福祉財団賞」を設けて、優れた著作と論文を表彰しています。

さらに、交通安全関係の活動や、高齢者福祉施設の介護用福祉車両購入等への助成も実施しています。

2022年度は46件、約4,200万円を助成。設立以来の累計助成実績では2,271件、約25億4,900万円に及んでいます。

<https://www.ms-ins.com/welfare>



2022年度 国内研究助成・財団賞贈呈式

三井住友海上文化財団の活動 (1988年創立)

地域の文化振興支援を目的として、音楽・郷土芸能の分野で助成を行っています。主な活動は、各地の公立文化ホールでの、都道府県ならびに市町村との共同主催による「地域住民のためのコンサート」の開催と、「文化の国際交流活動に対する助成」です。



地域住民のためのコンサート

地域住民のためのコンサート(1995年メセナ普及賞受賞)

	累計
公演回数	965回

文化の国際交流活動に対する助成(2000年文部大臣賞受賞)

	累計
助成件数	482件
助成金額	3億230万円

<https://www.ms-ins-bunkazaidan.or.jp>

スポーツ振興への取り組み

当社は、スポーツ界の第一線で活躍する選手を育て、世界のスポーツの発展と繁栄の一助となるよう、スポーツ振興に積極的に取り組んでいます。またアスリートが主体となり、地域との交流や地域環境との共生を目的とした活動を推進しています。これらの取り組みが評価され、「令和4年度東京都スポーツ推進モデル企業」に選定、「スポーツエールカンパニー2023」に認定されました。



東京都スポーツ推進モデル企業の表彰式
(左) 小池 百合子都知事、(右) 酒井 美行専務



(上) 女子柔道部「親子柔道教室」
(下) 陸上競技部「Smile&Run！」



トライアスロン部「MS Kids Triathlon」
(©アフロスポーツ)

女子柔道部

女子柔道部には9名の選手が在籍し、国内外の大会で活躍しています。

【主な大会結果】

年月	大会名	順位、選手名(階級)
2022年 5月	全日本実業柔道団体対抗大会	優勝
2022年 7月	グランドスラム・ハンガリー	優勝：舟久保 遥香(57kg級)
2022年10月	世界柔道選手権大会	準優勝：舟久保 遥香(57kg級) 優勝【男女混合団体戦】： 日本代表チーム【玉置 桃、舟久保 遥香】
2022年12月	グランドスラム・東京	優勝：舟久保 遥香(57kg級) 優勝：高山 莉加(78kg級) 3位：玉置 桃(57kg級)
2022年12月	ワールドマスターズ・エルサレム	5位：高山 莉加(78kg級)
2023年 2月	グランドスラム・パリ	3位：舟久保 遥香(57kg級)
2023年 3月	グランドスラム・タシケント	優勝：玉置 桃(57kg級) 優勝：高山 莉加(78kg級)
2023年 4月	全日本選抜柔道体別別選手権大会	優勝：桑形 萌花(70kg級) 優勝：高山 莉加(78kg級)



(左) 玉置 桃選手
(右) 舟久保 遥香選手
(©アフロスポーツ)



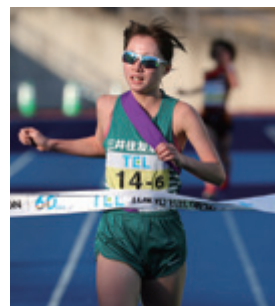
団体戦で9度目の優勝
(©アフロスポーツ)

陸上競技部

陸上競技部には12名の選手が在籍し、マラソンやトラック種目で活躍しています。

【主な大会結果】

年月	大会名	順位、選手名(種目)
2022年 6月	日本陸上競技選手権大会	3位：西山 未奈美(3000mSC)
2022年10月	全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会	6位
2022年11月	全日本実業団対抗女子駅伝競走大会	14位
2023年 1月	大阪国際女子マラソン	15位：松田 杏奈
2023年 2月	青梅マラソン	優勝：福居 紗希 (30km女子 ※高校生以上40歳未満)
2023年 3月	名古屋ウィメンズマラソン	26位：松田 杏奈



全日本実業団対抗女子駅伝競走大会
(©アフロスポーツ)



西山 未奈美選手
(©アフロスポーツ)

トライアスロン部

トライアスロン部は2014年度に発足し、2名の選手が在籍しています。

【主な大会結果】

年月	大会名	順位、選手名
2022年 5月	アジアカップ・スービックベイ	7位：小田倉 真
2022年 5月	ワールドトライアスロン・横浜	9位：小田倉 真 34位：古谷 純平
2022年 9月	アジア選手権	3位：小田倉 真 5位：古谷 純平
2022年10月	日本トライアスロン選手権	優勝：小田倉 真
2022年10月	ワールドカップ・宮崎	6位：小田倉 真 7位：古谷 純平
2022年11月	ワールドトライアスロン世界選手権・アブダビ	48位：古谷 純平 58位：小田倉 真



小田倉 真選手
(©アフロスポーツ)



古谷 純平選手
(©アフロスポーツ)

パラアスリート

5名のパラアスリートが、それぞれの種目で世界のトップをめざして活動しています。

【主な大会結果】

年月	大会名	順位、選手名(種目、クラス)
2022年 4月	かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン	優勝：米岡 聡(フルマラソン男子B-1)
2022年 5月	ジャパンパラ陸上競技大会	優勝：米岡 聡(男子5000m T11) 優勝：道下 美里(女子1500m T12) 優勝：道下 美里(女子5000m T12) 優勝：神下 豊夢(男子円盤投 F46) 優勝：神下 豊夢(男子砲丸投 F46)
2022年 6月	日本パラ陸上競技選手権大会	優勝：道下 美里(女子5000m T12) 優勝：田中 司(男子円盤投 F12)
2022年 8月	北海道マラソン	優勝：道下 美里(視覚障がい者の部女子)<ガイド[前半]：河口 恵>
2022年11月	ワールドトライアスロンパラ世界選手権・アブダビ	10位：米岡 聡(PTVI男子)
2023年 3月	ワールドトライアスロンパラ・デボンポート	5位：米岡 聡(PTVI男子)



(左)ガイドの河口 恵選手
(右)道下 美里選手
(©アフロスポーツ)



2023年から柔道に競技転向した田中 司選手
(©アフロスポーツ)

サッカー・ラグビー・卓球・ガイド

各競技で活躍する4名の選手が在籍しています。



サッカー・菅澤 優衣香選手



ラグビー・小出 深冬選手
(写真提供:アルカス熊谷)



卓球・龍崎 東寅選手
(©アフロスポーツ)



ガイド・河口 恵選手
(©アフロスポーツ)

その他のスポーツ

社員の心身健康の増進、および年齢や役職、所属部署を越えた社員間コミュニケーションの活性化を図るため、部活動を積極的に推進・支援しています。

【主な大会結果】

年月	大会名	クラブ名	結果
2022年 9月	全日本実業団剣道大会	剣道部	優勝
2022年10月	全日本シーホース級ヨット選手権大会	ヨット部	優勝
2022年11月	企業対抗レディスゴルフトーナメント	ゴルフ部	優勝
2022年12月 2023年 1月	テニス日本リーグ	テニス部	出場

損害保険業界としての取組み



当社は一般社団法人 日本損害保険協会（以下、「損保協会」）の一員として、事故、災害および犯罪の防止・軽減に向けて、さまざまな社会貢献活動に取り組んでおり、2015年9月に国連サミットにて採択されたSDGsの達成にも貢献しています。また、消費者のリスク認識の一層の高揚を図り、損害保険の仕組みや役割を理解した上で、適切かつ有効に活用いただけるよう、「損害保険リテラシー」の向上に取り組んでいます。

防災・自然災害対策

地震保険の普及・啓発

地震保険は、法律に基づき国と損害保険会社が共同で運営する保険であり、地震・噴火・津波による建物・家財の損害を補償します。被災された方の生活安定に寄与する役割を担っており、2021年度に火災保険を契約された方の約7割が加入しています。損害保険業界では、テレビ・新聞などの広告を用いた啓発、代理店の支援等を通じて、地震保険の理解および加入促進を図っています。



地域の安全意識の啓発

- 幼児向け防災教育カードゲーム「ぼうさいダック」の作成・普及
- 小学生向け安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」の普及
- 中学生・高校生向けの防災教育教材の提供

地域の防災力・消防力強化への取組み

- 全国の自治体や離島への軽消防自動車の寄贈
- 防火標語の募集と防火ポスターの制作
- 「ハザードマップと一緒に読む本」やeラーニングコンテンツ「動画で学ぼう！ハザードマップ」のほか、チラシ「水災害への備え、本当に大丈夫ですか？」を損保協会ホームページに公開
- 「そんぽ防災Web」での情報・ツール提供

交通安全対策

交通事故防止・被害者への支援

自賠責保険の運用益を、自動車事故防止対策や自動車事故被害者支援等に活用しています。

交通安全啓発活動

- 交差点事故低減に向けて「全国交通事故多発交差点マップ」を損保協会ホームページに公開
- 自転車の交通ルール・マナー等を解説した冊子の作成や講演会等の開催
- 高齢者の事故防止を呼びかける反射材つき啓発チラシの提供
- 「飲酒運転防止マニュアル」の作成
- 後部座席シートベルト着用推進チラシの作成



犯罪防止対策

自動車盗難の防止

「自動車盗難等の防止に関する官民合同プロジェクトチーム」の民間側事務局として、自動車の盗難防止対策に取り組んでいます。

住宅修理業者に関するトラブルへの注意喚起

消費者庁・金融庁・警察庁および独立行政法人 国民生活センターの協力を得て、不正な住宅修理（リフォーム）業者とのトラブルを注意喚起するチラシ等を作成しています。また、お困りの方からご相談を受け付ける「保険金に関する災害便乗商法 相談ダイヤル」も設置し、被害防止に取り組んでいます。

啓発活動

地域で子どもが犯罪や不慮の事故に巻き込まれないよう、大人と子どもと一緒に学べる事前学習型の教材（手引き）を作成し、子どもたちの安全教育の推進に取り組んでいます。

環境問題への取組み

気候変動対応の推進

サステナブルな社会への円滑な移行に貢献すべく「気候変動対応方針」を策定し、「気候変動ガイドブック」や「気候変動特設ページ」を公開するとともに、ニュースレター配信や勉強会を実施しています。

環境問題に関する目標の設定

廃棄物やCO₂の排出量削減等について、損害保険業界としての目標を設定し、その実現に向けて取り組んでいます。

自動車リサイクル部品活用の推進

廃棄物やCO₂の排出量抑制を目的として、自動車修理におけるリサイクル部品の活用推進に取り組んでいます。

エコ安全ドライブの推進

「エコ安全ドライブ」を推進するため、普及啓発に取り組んでいます。



保険金不正請求防止に向けた取組み

保険金不正請求ホットラインの運営

「保険金不正請求ホットライン」を開設して、保険金不正請求に関する情報を収集し、損害保険各社の対策に役立てています。

保険金詐欺防止ポスターの作成・掲出

保険金詐欺のけん制と重罪を周知する保険金詐欺防止ポスターを作成・掲出しています。

啓発動画の作成・公開

保険金不正請求防止に関する理解の促進と、保険金不正請求ホットラインの周知を目的として、損保協会ホームページやYouTubeに啓発動画を公開しています。

